

都市・建物緑化

技術概要

都市のオープンスペースや、建物等を緑化することによって、都市全体の緑被率を向上させる。

新都市での導入効果について

アメニティを高めるとともに、日射遮蔽、蒸発散にともなう都市気温低下によるヒートアイランドの緩和や、CO₂固定による温暖化防止等の環境負荷削減効果ももつ。

ヒートアイランドの緩和については、緑地等の整備とともに建物緑化も含めて都市全体の緑被を高めることによって温度低減効果が見込まれる。既存文献（「都市公園における樹木の二酸化炭素固定効果に関する研究」（市村恒士ら）、平成11年都市計画論文集）によると、新規の都市公園を整備した場合の、平均的な1ha当たりのCO₂の累積固定量は、20年後に約21 t_{CO₂}/ha、30年後に約33 t_{CO₂}/ha、40年後に約44 t_{CO₂}/haと推計されている。

導入における課題（対応策）

都市緑化はアメニティ等の観点から各地で行われているが、環境負荷削減のために、定量的知見にもとづいて計画的に実施された例は少ない。

定量的効果を把握する技術の開発。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成